

西淀川記憶あつめ隊

Vol.7

西淀川区は、淀川、神崎川に挟まれ大阪湾に面しており、昔は繰り返し大きな水害に見舞われてきました。今回は第二室戸台風の被害にあわれた酒井さん夫妻のお話です。

酒井

政一さん
美代子さん2013年9月12日
聞き取り

酒井政一さん、美代子さん
第二室戸台風の時に、お二人の後ろの戸の上まで浸水したそうです。

◆第二室戸台風の上陸

酒井政一さんは93歳、美代子さんは84歳、大和田在住のご夫婦です。

酒井さん夫婦は昭和36年（1961年）に西淀川区大和田

に家を購入し引っ越ししてきました。当時の大和田は、道路も少なく静かな土地だったそうです。第二室戸台風は、同年9月16日お昼頃に西淀川に上陸しました。酒井さん夫婦は引越してきた年に被災したのです。お昼過ぎに、古河鋳業近くの西島川の堤防が決壊しました。近所の人の「水が来たー」という呼びかけを聞き、酒井さん家族は自宅2階に避難しました。酒井さん宅はあつというまに1階の襖の上まで浸水したそうです。

◆浸水後は2階で生活

避難所になっていた大和田小学校に1日避難したそうです。が、避難所でのストレスのためか子どもさんのお腹の調子が悪くなってしまい、安田病院に入院することになってしまいました。そのため、その後は自宅の2階で過ごしました。

自宅に浸水した水は、1週間ほどひかなかったそうです。「水がひいたと思って安心したら、翌日の朝にはまた水に浸かっている」という具合で、干潮、満潮のたびにどんどん水が出たり入ったりしました。移動の際に



水没した街をボートで行き交う人々（大和田小学校付近）『西淀川今昔写真集』より

は、ボートやドラム缶を使った筏などを利用しました。

浸水している間、一番困ったのはトイレ。隣の2階にトイレがあつたため、屋根越しにお隣まで行ってトイレを借りたのとことです。当時は汲み取り式のトイレということもあり、浸水してきた水は衛生的に大変汚かったようです。

浸水する前に、息子さんたちが（当時小学1年生・中学1年生）がミシン・扇風機・位牌を2階に運んでくれたものの、布団や家具は水浸しになってしまい、使えなくなってしまうそうです。写真も水に浸かってしまい、「昔の写真はほとんどないわ」と残念そうにおっしゃっていました。

◆災害の後

酒井さん夫婦は、トイレの大切さが身に沁みてわかったため、災害後に2階にトイレを設置

第二室戸台風による西淀川の被害

第二室戸台風は、昭和36年（1961年）9月16日に大阪を襲った台風です。大阪湾の高潮OP+4.1メートルに達し、市内は西大阪を中心に全半壊流失1,726戸、死者6人、負傷者682人におよびました。西淀川区では神崎川が氾濫して大和田・出来島・御幣島では家屋のほとんどが床上浸水の被害を受けました。

災害に備えるために、過去の災害の体験を後世に伝えていく必要があります。そのため、現在、おおぞら財団では、災害の記憶の掘り起こしを進めています。お話を聞かせていただける方は、お気軽におおぞら財団（06-6475-8885）までご連絡ください。

※この活動は公益財団法人JR西日本あんしん社会財団の助成でおこなっています。

しました。「トイレの大切さをみんなに言いたい」そうです。今の西淀川では大きな水害は減っていますが、それでも、大雨が降るとまた第二室戸台風の時のように浸水するのではないかと不安になるそうです。現在、都市化が進んでいる西淀川で第二室戸台風と同じような被害が起きたら、大パニックになるのではないかと思います。西淀川の人々の水害に対する粘り強さを感じたヒアリングでした。

（日本学術振興会特別研究員）
谷内久美子